

病院の言葉をもっと分かりやすく

国立循環器病研究センター 臨床倫理室長 會澤久仁子

協力 明治大学国際日本学部 教授 田中牧郎先生
(元 国立国語研究所「病院の言葉」委員会 作業部会長)

このe-learningは、2022年度国立循環器病研究センター臨床倫理研修会における
田中牧郎先生のご講演をもとに、改変して作成しました。



目次

- 背景と目標
- 「病院の言葉」を分かりやすくする提案
 - 調査方法
 - 調査結果
 - 分かりにくい原因と、分かりやすくする工夫の類型と事例
- まとめ



背景：病院の言葉は分かりにくい？

例：専門用語、カタカナ外来語、アルファベット略語、業界用語など

医学・医療の「専門用語」とは

専門分野の概念や事物を表し、緻密な定義や用法に基づく

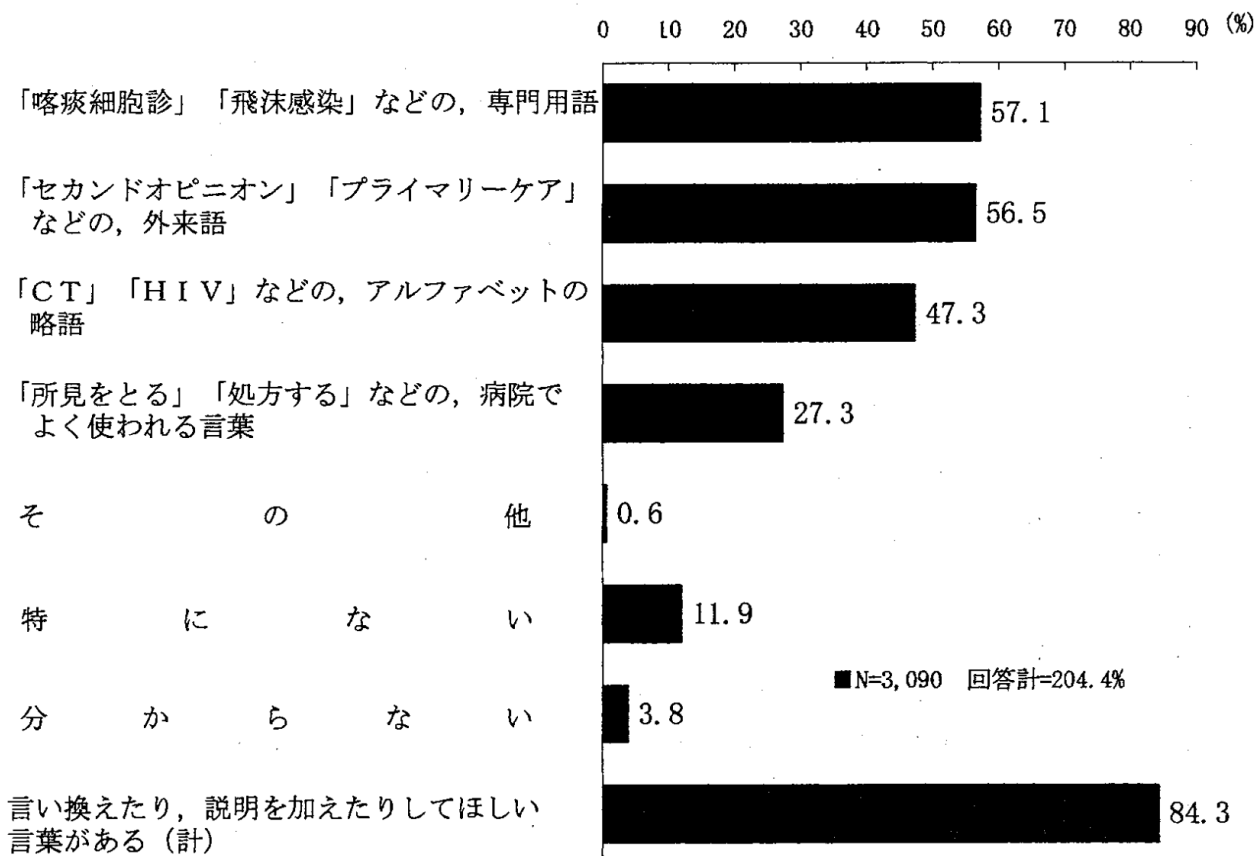
- その分野の専門家同士が使う（知っている）用語
→ 専門分野でのコミュニケーションが容易に
- その分野の専門家以外は使わない（知らない）用語
→ 専門家と一般人との意思疎通を阻害しうる



2 分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしい医療用語

図 4-2-1

問12 [カード] 医者が患者や家族に話すときは、分かりやすく言い換えたり、説明を加えたりしてほしいと思うのは、どんな種類の言葉ですか。この中からいくつでも選んでください。(複数回答)



国立国語研究所
「外来語に関する意識調査 II
(全国調査)」2004

84%

目標

- 「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」について知る。
（国立国語研究所「病院の言葉」委員会、2009）
 - 調査方法と結果
 - 分かりやすくする工夫の類型、事例
- 「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」を活用し、
より分かりやすい説明を工夫することができる。



「病院の言葉」を分かりやすくする提案 (国立国語研究所、2009)

医療の専門家 (医師・看護師・薬剤師ほか) と言葉の専門家 24名による
委員会

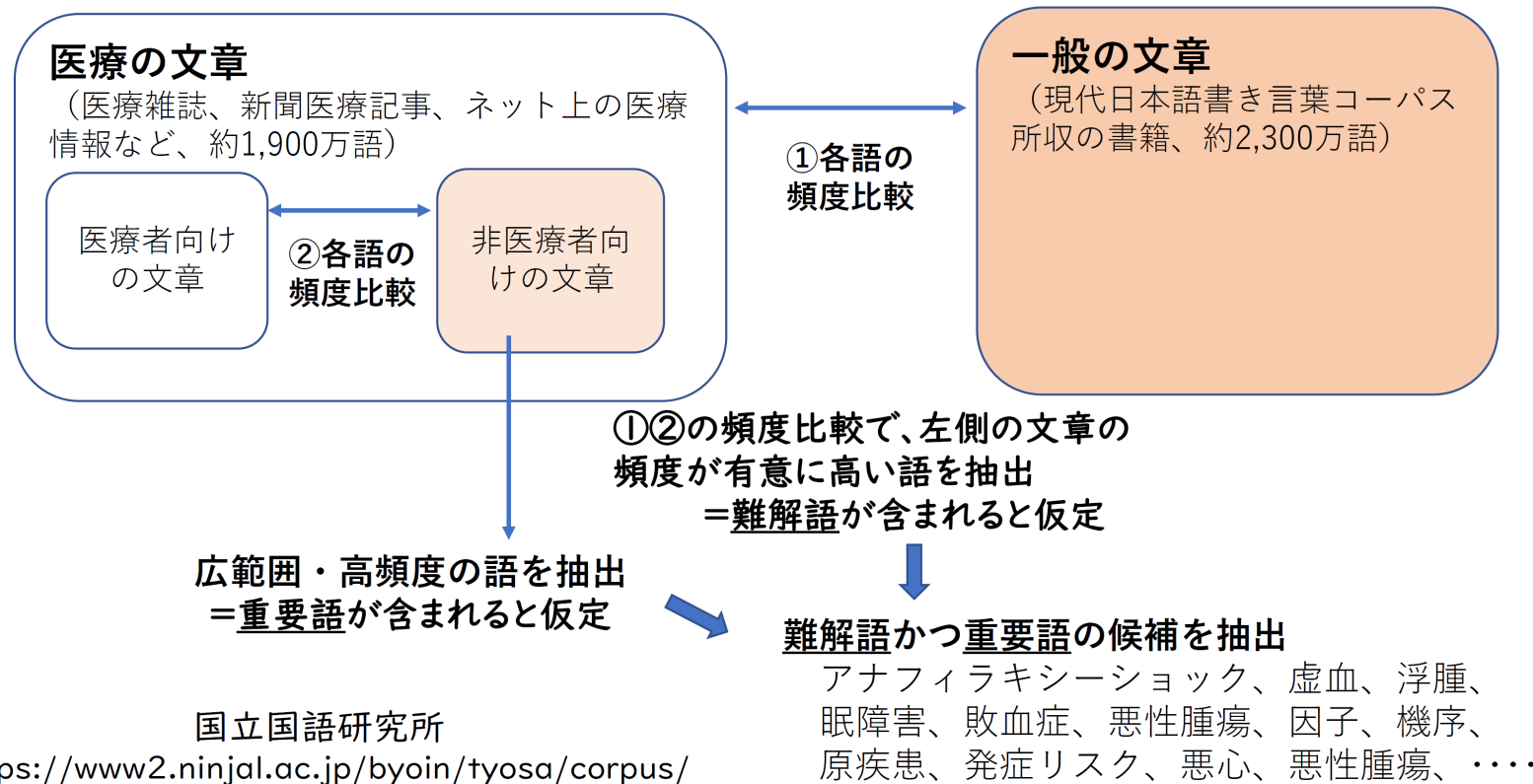
医療者が患者に使う分かりにくい言葉を、分かりやすくする工夫
について、調査に基づき提案



国立国語研究所 <https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/>

医療分野の難解語かつ重要語を抽出 コーパス調査

(大量の言語データの定量的分析、2007.10-2008.1)



国立国語研究所

<https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/tyosa/corpus/>



医師に対する問題語記述調査

(患者に言葉が伝わらなかった経験を尋ねる調査)

451人の医師にメールで依頼。約800語、約1,500件の情報が集まった。(2008. 3)

語	回答件数	できごと	注意していること、工夫していること。その理由
予後	77	大学病院で「奥様の予後についてはどう言われましたか？」と聞いたら、予後という単語がわからないようだった。	予後、余命とかいう単語が、医療関係者にしかわからないので、あとどのくらい元気でいられるか？とかわかりやすく話すようにしている。
合併症	40	手術での術前説明時に合併症についてご説明させていただいているのですが、合併症というのが医療者のミスのようにとられがちです。手術がうまくいけば合併症なんか起こらないのでしょと質問されることも、たびたび経験します。	合併症について説明する前に「最大限努力し、注意しても、どうしても起こってしまう可能性のあることを合併症といいます。」と付け加えている。
炎症	20		
腫瘍	18		



医療用語全体

- ① 言葉の頻度調査（コーパス調査）
- ② 医師に対する問題語記述調査

提案に取り上げる候補になる可能性のある言葉（20,000語余り）

抽出

- ① 言葉の頻度調査（コーパス調査）
- ② 医師に対する問題語記述調査

提案に取り上げる候補になる言葉（約2000語）
言葉の選定リスト

選定

実務委員会による作業

提案のために詳しく検討する言葉（100語）
選定・類型の設定
定量調査にかけた言葉
一語一語詳しく検討した言葉

- ③ 医療者に対する用語意識調査
 - ④ 非医療者に対する理解度等の調査
- 実務委員会による作業

詳しい工夫例を提案する言葉（57語）

分かりやすい表現の提案

言葉の絞り込み

国立国語研究所
<https://www2.ninjal.ac.jp/byoin/teian/keika/keika2/keika2-4/>



非医療者に対する理解度等の調査(Ⅰ)

問1. あなたは、「ショック」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。

a ある (94%) b ない

→ 「ある」と回答した人の比率 = 「認知率」

[問1で、aと回答した人に]

問2. あなたは、病院で使われる「ショック」という言葉が、「血圧が下がり、生命の危険がある状態」という意味であることを、知っていましたか。

a 知っていた (43%) b 知らなかった

→ 「知っていた」と回答した人の比率 = 「理解率」



非医療者に対する理解度等の調査(2)

[問1で、aと回答した人に]

問3. 次にあげるのは、「ショック」についての、ありがちな誤解や偏見、不正確な理解です。これらのうち、あなたがそのように理解していたものすべてを選んでください。(今はそのように理解していなくても、過去にそのように理解していたことがあれば、すべて選んでください)

- a びっくりすること (29%)
- b 急な刺激を受けること (47%)
- c ひどく悲しんだり落ち込んだりすること (24%)
- d 一時的なもので心配はいらない (9%)

→ それぞれを選択した人の比率 = 「誤解率」



認知率が低い言葉（知られていない言葉）

非医療者 4,276名、2008.8

言葉	認知率
DIC	4 %
振戦	7 %
集学的治療	10 %
イレウス	13 %
寛解	14 %
QOL	16 %
エビデンス	24 %
せん妄	25 %
ADL	30 %

言葉	認知率
ターミナルケア	33 %
MRSA	33 %
浸潤	41 %
虚血性心疾患	42 %
生検	43 %
重篤	50 %
誤嚥	51 %
塞栓	51 %
予後	53 %



認知率が高いが、理解率との差が大きい言葉 (知られているが、理解されていない言葉)

言葉	認知率	理解率	差
ショック	94%	43%	51
ステロイド	94%	44%	50
川崎病	79%	31%	48
肺水腫	74%	28%	47
膠原病	82%	39%	43
コンプライアンス	65%	28%	38
頓服	83%	47%	36
ウイルス	100%	65%	35
ガイドライン	90%	57%	33
敗血症	70%	38%	32



誤解率の高い言葉 (意味の混同や混乱が多い言葉)

言葉	誤解	誤解率
貧血	急に立ち上がったときに立ちくらみを起こしたり、長時間立っていたときにめまいがすること	68%
ショック	急な刺激を受けること	47%
川崎病	川崎市周辺で発生した公害病である	35%
合併症	偶然に起こる症状のこと	31%
ショック	びっくりすること	29%
コンプライアンス	医師が法令を守って治療すること	27%



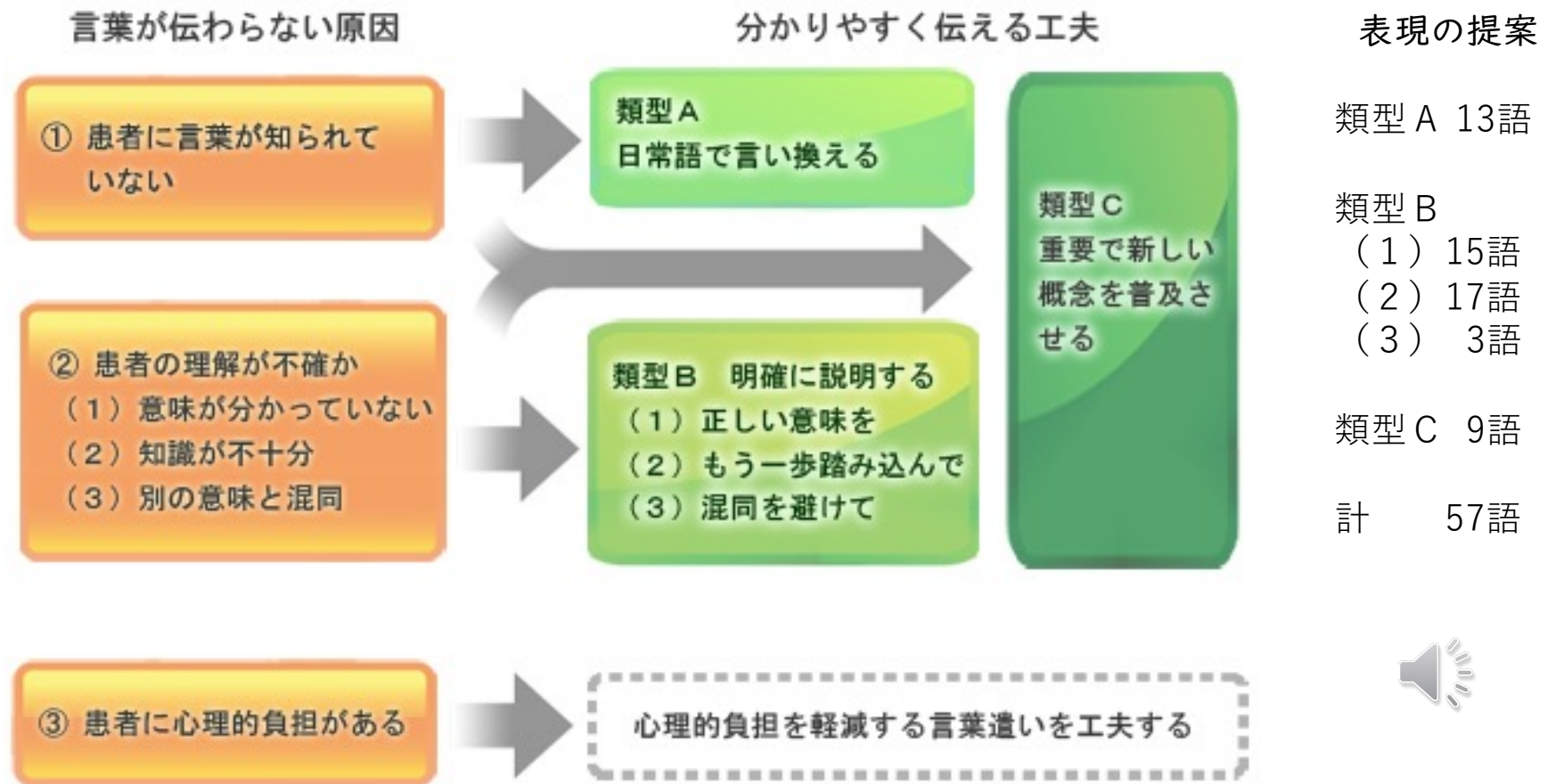
医療者に対する用語意識調査

(患者が知らない/理解していないが、医療者がよく使う言葉)

2008.3

		非医療者 N=4,276			医師 N=650		
		認知率 (%)	理解率 (%)	認知率と理解率の差	① そのまま使い、言い換えたり説明を付けたりはしない(%)	② そのまま使うが、言い換えたり説明を付けたりしている(%)	①+② 使用率 (%)
A類： 低認知率 (知られていない)	重篤	50	49	1	31	34	66
	誤嚥	51	46	5	15	67	82
	予後	53	38	15	10	44	54
B類： 高認知率だが理解率との差が大きい (知られているが理解されていない)	ステロイド	94	44	50	23	64	87
	頓服	83	47	36	24	49	73
	ウイルス	100	65	35	52	44	96
	潰瘍	97	74	24	46	44	90
	腫瘍	99	76	23	35	57	92
	貧血	100	77	23	57	39	96
	炎症	98	77	21	47	50	97

分かりにくさと分かりやすくする工夫の類型 (提案の概要)



類型 A : 日常語で言い換える

原因 ①

認知率が低く一般に知られていない



できるだけ使わないようにし、
日常語を使って言い換えることが望まれる

13語

イレウス、エビデンス、寛解、誤嚥、重篤、浸潤、
生検、せん妄、耐性、予後、ADL、COPD、MRSA



語別の工夫例 重篤 [類型A]

まずこれだけは

病状が非常に重いこと

言葉遣いのポイント

1. 一般の人には知られていない言葉（認知率50.3%）であるのに、患者に対してこの言葉を使う医療者は多い（医師65.7%, 看護師・薬剤師29.9%）。別の言葉で十分言い表すことができる意味であるので、「重篤」という言葉は患者には使わないようにしたい。（省略）

ここに注意

1. 類義の言葉に、「重症」「重体」「危篤」などがあるが、それらとの使い分けもあいまいで分かりにくい。命の危険があることを伝えたい場合は、「重篤」という言葉を使うのは避け、その旨をはっきりと伝えた方がよい。

説明文書の記載例

「重篤な有害事象」

→ 「重大な副作用など」

※「副作用」も補足説明が望ましい



類型B①： 正しい意味を明確に説明する

原因② (1) 認知率は高く一般に知られているが、
理解率との差が大きく、理解されていない言葉



正しい意味が理解できるように、
明確に説明する必要がある

15語

インスリン、ウイルス、炎症、介護老人保健施設、潰瘍、
グループホーム、膠原病、腫瘍、腫瘍マーカー、腎不全、
ステロイド、対症療法、頓服、敗血症、メタボリックシンドローム



類型B②： もう一步踏み込んで明確に説明する

原因
② (2) 認知率・理解率ともに高く、大体の意味は理解されているが、
知識が不確かな言葉



確かな知識を持ってもらえるように、
一步踏み込んで明確に説明する必要がある。

17語 悪性腫瘍、うっ血、うつ病、黄だん、化学療法、肝硬変、既往歴、抗体、
ぜん息、尊厳死、治験、糖尿病、動脈硬化、熱中症、脳死、副作用、
ポリープ



類型B③： 誤解や混同を避けて明確に説明する

原因
② (3)

認知率は高く言葉はよく知られているが、
誤解や意味の混同が起きやすい言葉



誤解や混同を避けて明確に説明する必要がある

3語

合併症、ショック、貧血



語別の工夫例

ショック

[類型B③]

まずこれだけは

血圧が下がり、生命の危険がある状態

説明文書の記載例

「急激に血圧が下がり、
生命にかかわる状態」

少し詳しく

「血液の循環がうまくいかず、細胞に酸素が行きにくくなった状態です。
生命の危険があるので、緊急に治療が必要です」

時間をかけてじっくりと

「血液の循環がうまくいかなくなって、脳や臓器などが酸素不足におちいり、
生命にかかわる大変に危険な状態です。緊急に治療する必要があります。
血圧が下がる、顔面が真っ白になる、脈が弱くなる、意識がうすれるなどの
症状が現れます」



こんな誤解がある

日常語「ショック」は、単にびっくりした状態、急に衝撃を受けた状態という意味であり、患者やその家族は、「ショック」「ショック状態」と聞いても、この日常語の意味で受け取ってしまいがちである。

- 急な刺激を受けることだという誤解(46.5%)
- びっくりすることという誤解(28.8%)
- ひどく悲しんだり落ち込んだりすることという誤解(23.9%)

したがって、「ショック」「ショック状態」という言葉を使うだけで済ませてはならず、重大さや危険性の伝わる言葉を言い添えることが必要である。

混同を避けるための言葉遣いのポイント

「ショック」という言葉は認知率94.4%と非常に高いが、血圧が下がり生命の危険があるという意味での理解率は43.4%と極めて低い。「ショック」「ショック状態」と言っても、大事な意味が伝わらない危険性は高い。この言葉を使用する場面は、緊急事態で時間的ゆとりがないことも多い。家族に説明する際には、「ショック」という言葉は使わずに、何よりもまず生命の危険があるということを伝えなければならない。

類型C：重要で新しい概念の普及を図る

原因
① ②

認知率が低かったり、理解率が低かったりする言葉の中には、新しく登場した重要な概念を表し、今後普及が期待されるものがある



重要で新しい概念を普及させる工夫が望まれる

9語

インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、ガイドライン、
クリニカルパス、QOL、緩和ケア、プライマリーケア、MRI、PET

(信頼と安心の医療、普段の生活を大事にする医療、新しい医療機器)



語別の工夫例 インフォームドコンセント [類型C]

まずこれだけは

納得診療 説明と同意
納得できる医療を患者自身が選択すること

「ICする」のは
患者です

少し詳しく

「治療法などについて、医師から十分な説明を受けた上で、
患者が正しく理解し納得して、同意することです」

時間をかけてじっくりと

「治療法などについて、医師から十分な説明を受けた上で、患者が正しく理解し納得して、同意することです。医師は平易な言葉で患者の理解を確かめながら説明します。患者は納得できる治療法を選択し、同意します。医師が治療法を決めるのではなく、かといって患者にすべてを決めてもらうのではなく、**ともに考える医療です**。医師の説明を理解し納得して、治療法に同意できる場合、同意書を出してもらうことになります」

「ICする」のは
患者です

概念の普及のための言葉遣いのポイント

1. 患者中心の医療の根本にある理念を表す言葉を、一般に広く普及させることが、強く望まれる。普及のためには分かりやすい言葉を覚えてもらう必要がある。「インフォームドコンセント」は長くて覚えにくく、認知率70.8%, 理解率64.7%にとどまっており、普及していない。[まずこれだけは]に示した「納得診療」「説明と同意」は、普及を図ることができる分かりやすい言い換え語である。普及のためには、医療者が言い換え語を積極的に使う必要がある。
2. 「納得診療」という言い換え語が効果的であるのは、「診療」の場面で問題になることが示せることと、患者の「納得」が大事なことであることが示せることの二点である。患者の視点から、この理念の根本を分かってもらいたいときに使うと効果的である。
3. 「説明と同意」という言い換え語は、この概念を最も端的に示しており、分かりやすい。医師の説明と患者の同意の双方の行為によって成り立っていることを分かってもらいたいときに使うと効果的である。
4. 医療者はインフォームドコンセントと言うと、手続きとしてとらえがちだが、まず患者が主体的に選ぶ医療だという理念を分かってもらった上で手続きであることを忘れないようにしたい。理念と手続きの両方が、患者にも定着するような言葉遣いを工夫したい。患者自らの語彙(ごい)の中にこの概念を定着させるには、まず「納得診療」という理念、そして「説明と同意」という手続きを覚えてもらうようにしたい。



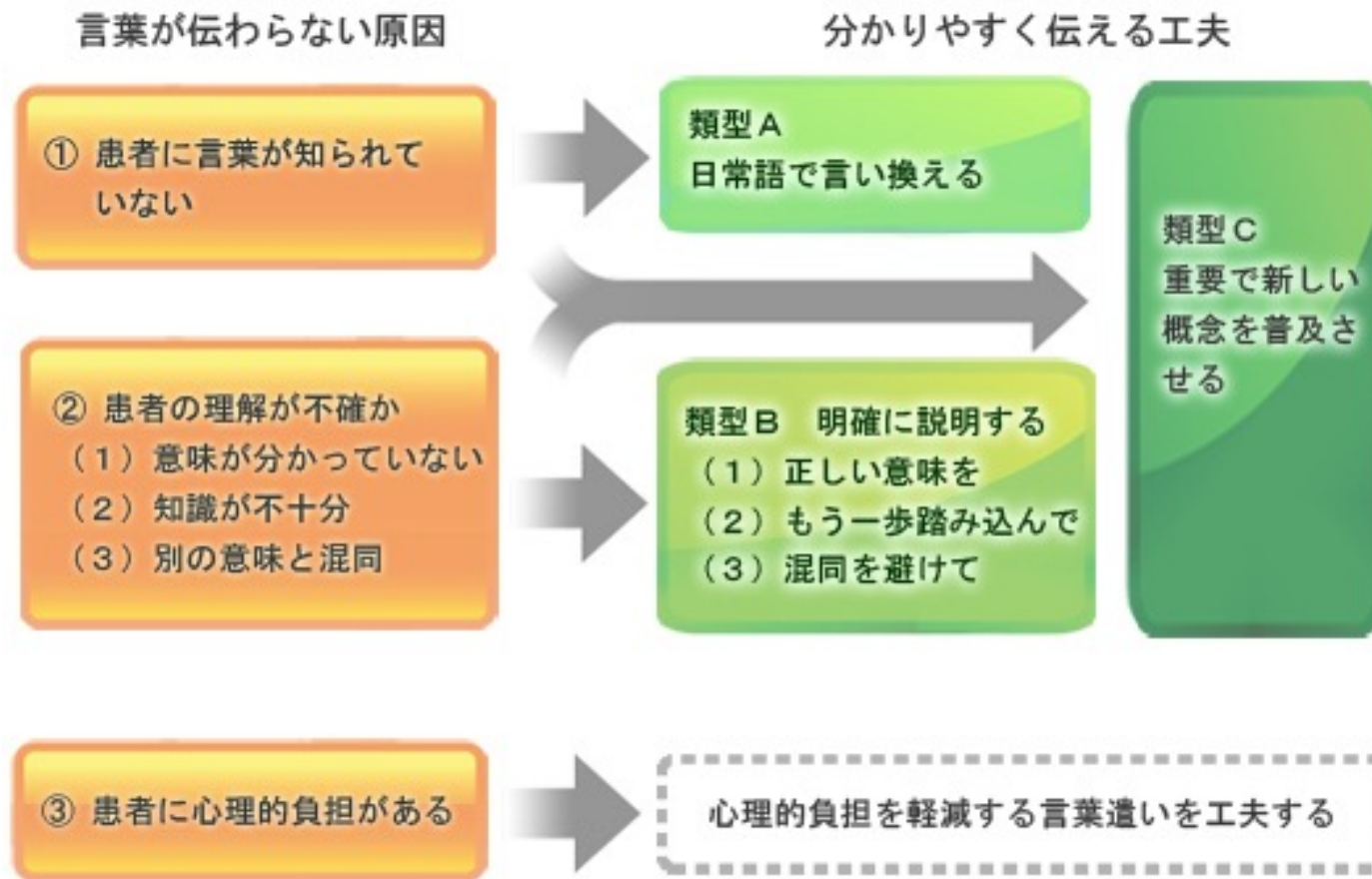
ここに注意

「ICする」のは
患者です

1. 「インフォームドコンセント」やその略称の「IC」は、医療者側では、治療などに際しての手続きを指す言葉として使われている。しかし、一般の人にとっては、分かりにくく、語形もなじめない。患者がその手続きの意義を理解することは、おおもとにある理念を正しく理解しなければ、不可能である。インフォームドコンセントの手続きに入る前に、その理念を分かりやすく伝える必要がある。
2. インフォームドコンセントにおける一番の問題は、医師と患者の間の決定的な知識の格差である。この格差を埋める、患者の十分な「理解」と「納得」が重要である。理念を分かってもらうための説明の表現にも、このことを強調する言葉を用いるようにしたい。医師側が求める「同意」はあくまでもその結果であることを忘れないようにしたい。
3. インフォームドコンセントにおける医師の説明は、患者や家族が、その内容を完全に理解したことを確認して、初めて完結する。難しい医療用語が並ぶ画一的・マニュアル的説明では、医師側にとっては完全であっても患者を納得に導くことは困難である。医師は、それぞれの患者の理解力を見極めた上で、**できる限り易しい言葉や表現を選び**、患者が分かっているかどうか一つ一つ確かめながら、ゆっくりと話を進めることが肝心である。また、いつでも何でも質問に応じる用意があることを口頭でも、態度でも示しておきたい。
4. インフォームドコンセントの手続きについて、患者は一度判を押したらもう取り消せないというような印象を持つ場合もある。いつでも取り消しができることも伝えたい。



再掲 分かりにくさと分かりやすくする工夫の類型 (提案の概要)



まとめ

- 高度専門化する医療の場で、患者への分かりやすい説明と患者の理解はいっそう不可欠（口頭、文書）。
- 「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」は、医療専門家と言語専門家による綿密な調査検討に基づく。
 - 難解語かつ重要語を抽出し、認知度、理解度、誤解等を調査
 - 分かりにくい原因と、工夫の類型、具体的表現を提案
- 提案を十分に活用し、他の言葉への応用が望まれる。



ご清聴ありがとうございました

